

一般演題8-3

電子カルテ導入による高気圧酸素治療患者誤認防止と業務効率向上の有用性について

三春摩弥¹⁾ 吉岡 淳¹⁾ 石山智之¹⁾ 齊藤大樹¹⁾
田中隆昭¹⁾ 平井一郎²⁾ 土谷順彦³⁾

- | |
|----------------------|
| 1) 山形大学医学部附属病院 臨床工学部 |
| 2) 山形大学医学部 外科学第1講座 |
| 3) 山形大学医学部 腎泌尿器外科学講座 |

【背景】

当院では電子カルテを導入しているが、高気圧酸素治療利用申込書や同意書、患者治療前チェックリスト等の文書は手書きの用紙で運用をしていた。その中で、診察券の手書きによる写し間違いから高気圧酸素治療患者の誤認インシデントが発生した。また、同意書に関しては確実に得ているのか把握ができていなかった。

【目的】

医療情報部と連携した高気圧酸素治療利用申込書、同意書、患者治療前チェックリストを紙文書から電子化して、電子カルテでの運用を開始した。今回、電子カルテ導入による高気圧酸素治療患者誤認防止と業務効率向上の有用性について検討すること。

【方法】

Excelにて高気圧酸素利用申込書・同意書・高気圧患者治療前チェックリストを作成した。医療情報部と連携し、高気圧酸素治療専用フォルダを作成した。患者カルテより自動で患者名・患者ID・年齢・感染症情報が反映されるような形式とし、平成28年12月より運用を開始した。プリントアウトをして文書を使用し、チェック、サイン後にはスキャン処理し電子カルテへ反映させた運用方法の変更については各部署へ院内通知とともに詳しい入力手順を配布するとともに、入力手順は電子カルテ端末よりいつでも閲覧可能とした。

【結果】

高気圧酸素利用申込書 (図1)・同意書 (図2)・高気圧患者治療前チェックリスト (図3)を電子カルテと連携させたことで患者ID、氏名、感染症情報等が自動入力化され、患者誤認防止だけではなく入力作業の簡略化が可能となった。同意書を専用フォルダ内にアップすることで説明の統一化・確実な同意の取得が可能となった。スキャン専用コードから電子カルテ内データを保管できることで、紙ベースの資料をなくすことができた。当院では富士通の電子カルテシステムが採用されているが、追加でファイルを作成すると多額の費用が発生してしまう。しかし、医療安全の面からも電子カルテの導入が望まれ、臨床工学技士と医療情報部が連携して電子カルテ内に専用フォルダを作成したことで、費用を一切かけずに手書き文書を電子化することができた。

【考察】

今までは、高気圧酸素治療利用申込書や同意書、患者治

療前チェックリスト等の文書は高気圧酸素療法室管理で、初回治療時に文書を取りに来る必要があった。電子カルテ導入後は、自部門で入手できることから業務効率化へつながったものと考えられる。高気圧酸素治療前には、入念な身体検査が必要で、チェック用紙と実施者のサインは不可欠である。このため、高気圧酸素治療に必要な文書作成を紙文書から電子化した。実際には紙文書の出力が必要で、電子カルテへ反映するために使用後はスキャン処理している。今後は、タブレット端末を活用したペーパーレス化を実現したい。

【結語】

高気圧酸素治療に必要な文書を紙文書から電子化し、電子カルテでの運用を開始した。電子カルテ導入後は、文書への手書きによる患者情報の写し間違いを防止し、入力作業の簡略化が可能となり、紙文書の電子化によって業務効率の向上が示唆された。臨床工学技士と医療情報部が協力したことで、費用をかけずに高気圧酸素治療に必要な手書き文書を電子カルテへ導入することができた。

図1 高気圧酸素治療指示書

図2 同意書

図3 治療前患者チェックリスト